

I DORAMPICはどこに位置づけられるか？

項目	内容
伝統的なジャンル	風景画、ロマン主義、象徴主義に近いがそれだけではない
現代アート内の潮流	ポスト概念主義的、ニュー・ロマンティズム的傾向あり
最もふさわしい評価	「ジャンルを横断する独自の系譜」 = DORAMPICはDORAMPICという新しいジャンル

II DORAMPICの系譜をたどるアート年表

～風景と物語・感情の融合

年代	アート運動／作家	特徴とDORAMPICとの関係性
紀元前～	古代ギリシア・ローマ	景観は背景でしかなかった。人間中心。 DORAMPICの「背景を主役にする」点と対照的。
14～15C	ルネサンス（レオナルド、ピエロ）	遠近法・自然の観察。物語は人物に込められた。 DORAMPICの「風景にも物語を」の対極から出発。
17C	バロック（ルーベンス、レンブラント）	光と影、劇的表現。 DORAMPICのドラマ性の祖型的要素。
18C	ロココ→新古典主義	風景は装飾に近かった。
19C前半	ロマン主義（フリードリヒ）	✓ 自然が感情を代弁。孤独・崇高さ。 DORAMPICの情緒的風景の直系。
19C中盤	バルビゾン派、ミレー	風景と人間の関係、農民の静かなドラマ。 日常の中の詩情。DORAMPIC的「静かなドラマ性」に接近。
19C後半	印象派、ポスト印象派（モネ、ゴッホ）	✓ 光と時間の移ろい、特にゴッホはDORAMPICの 起点。色彩と感情が風景と融合。
20C初頭	象徴主義（ルドン）／キリコ	内面世界と風景の融合。超現実的空間。心理的風景 = DORAMPICの側面と共鳴。
20C中盤	抽象表現主義（ロスコなど）	感情の抽象表現。ただし物語性より情緒性が強調 され、DORAMPICとはやや異なる方向。
20C後半	コンセプチュアルアート、ポップアート	アイデア重視で感情や風景は薄れる。DORAMPIC はこの流れの「揺り戻し」としての再提案。
21C	ポスト概念主義、映像インスタレーション、AIアート	表現方法は広がったが、見る人の感情に残るアートの 再定義としてDORAMPICが登場しうる。

III DORAMPICの「原点」としてふさわしい作家

「風景＋感情＋物語性」という軸で見ると、以下の作家がDORAMPICの精神的起源にぴったりです。

作家	特徴	DORAMPICとの関係
🎨 カスパー・ダーヴィット・フリードリヒ (19Cロマン主義)	自然の中に孤独と精神性を見出す。 人は風景に対して小さい存在。	✅ 風景が感情を語る起点。 静かなドラマ性はまさにDORAMPIC的。
🎨 フィンセント・ファン・ゴッホ	色彩・筆致・主観の込め方が極めて強い。風景に感情を込めた典型。	✅ DORAMPICの美学的・情緒的な原点。
🎨 ヴィルヘルム・ハンマースホイ	空間の静寂、余白の中の物語。 人の不在が語る物語。	✅ 静かな中に強いドラマ。 DORAMPICの静謐性に通じる。
🎨 ジョルジョ・デ・キリコ	現実の風景に、夢のような時間感覚を持ち込む。	✅ DORAMPICの「記憶」 「詩情」「超現実」の要素と響き合う。
🎨 アントニオ・ロペス	写実性を通じて、時間と人生を風景に込めるスペイン画家。	✅ 時間の堆積を描く姿勢が、 DORAMPICの深層と合致。

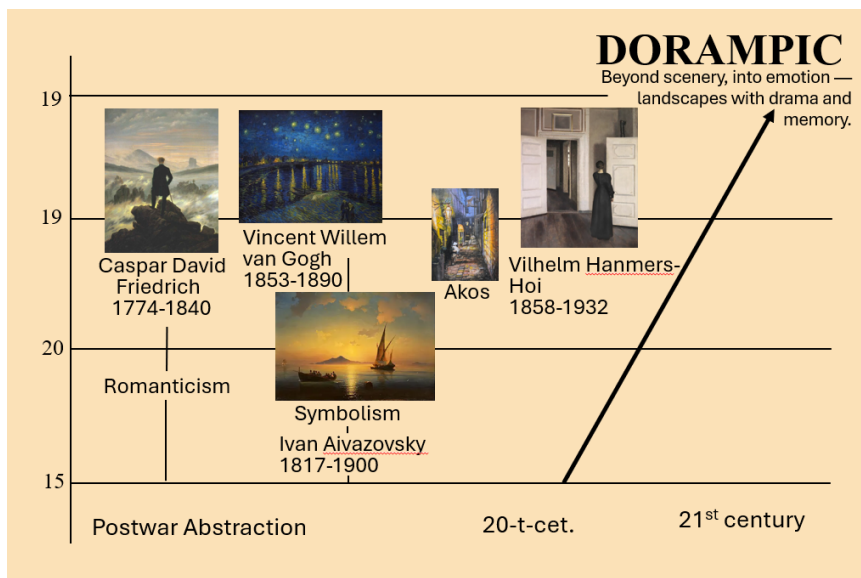
■ 結論：「DORAMPIC」は何の後継か？

- ・ロマン主義の情緒
- ・印象派の時間性
- ・象徴主義・ハンマースホイの詩的静寂
- ・そして現代への問いかけ

➡ DORAMPIC = 「心の記憶としての風景画」

見る人自身が登場人物となる、新しい鑑賞体験をもたらすスタイル。

< DORAMPICの位置付け？



《DORAMPIC宣言（マニフェスト）》 — 心に残る風景を —

私たちは風景をただ“きれい”と切り取るのではなく、
その中に潜む物語、記憶、孤独、希望、沈黙、そして時
を描く。

DORAMPICは、風景に**詩**と**ドラマ**を刻む。

空や海、街路や森に、名もなき人生のかけらを映す。

鑑賞者は絵の外から観る存在ではなく、物語の登場人物
の一人である。

私たちは、誰もが心に持つ“あの日の景色”を、絵画に宿
す。

そしてそれは、見る者の中で再び立ち上がり、新たな意
味と感情を生む。

DORAMPICとは、**時代を越えて心にとどまる風景芸術の
再定義**である。

見る風景から、感じる風景へ。
時間が止まり、記憶が始まる。

*Beyond scenery—
into emotion.*

